

[ブロック血液センター所長推薦優秀演題]

若年層献血推進のため岡山県学生献血推進連盟の協力を得て
実施した「キッズ献血」岡山県赤十字血液センター¹⁾, 岡山県学生献血推進連盟“S.B.D.Momo”²⁾水畑太輔¹⁾, 劔持雅子²⁾, 金関 舞²⁾, 廣江善男¹⁾, 村上文一¹⁾, 富嶋邦彦¹⁾, 富田徳子¹⁾,
大森久仁子¹⁾, 石川雅一¹⁾, 川邊 修¹⁾, 池田和真¹⁾“Kids blood donation” which obtained and carried out
cooperation of the Okayama student blood donation promotion
league for younger age group blood donation promotionOkayama Red Cross Blood Center¹⁾,The federation of Okayama Students to promote Blood Donation²⁾Daisuke Mizuhata¹⁾, Masako Kenmotsu²⁾, Mai Kanaseki²⁾, Yoshio Hiroe¹⁾,
Fumikazu Murakami¹⁾, Kunihiro Tomishima¹⁾, Noriko Tomita¹⁾, Kuniko Omori¹⁾,
Masakazu Ishikawa¹⁾, Osamu Kawabe¹⁾ and Kazuma Ikeda¹⁾

【はじめに】

少子高齢化社会を迎えている現在の血液事業において、若年層献血推進は最重要課題となっている。

そこで我々は、血液事業本部より示されている「若年層献血者確保対策の実施について」を受けて、献血啓発事業の1つとして「キッズ献血体験教室」を開催し、今後も継続的に行える新たな啓発活動として成果が得られたので報告する。

このイベントには目的を2つ設定した。第1は、将来の献血者を育成するため、厚生労働省が行っている「楽しく学ぼうキッズ献血」を参考に、献血年齢に満たない年齢層への献血を啓発すること。第2は、岡山県学生献血推進連盟“S.B.D.Momo”（以下、学生連盟と略す。）の通常行っているイベントとは異なる採血を伴わない活動の実践により、今後の継続の可能性について検討することとした。

【方 法】

1. 会場の選択と事前広報

会場は中四国地方最大級のショッピングセンターであるイオンモール倉敷とし、若年層の集客が見込める週末に開催した。若年層の中でもとくに小学生を対象として、岡山県および岡山県教育委員会の後援による告知チラシの配布等、幅広く広報活動を行った（表1）。

2. 会場の準備

楽しい雰囲気が伝わるような会場作りを行うため、けんけつちゃんを主体とした横断幕、ベッドカバー、けんけつちゃんの耳のペーパークラフトを作成し、楽しさを演出しながらも本格的な献血体験をするため、血圧計や聴診器等も準備した（図1）。

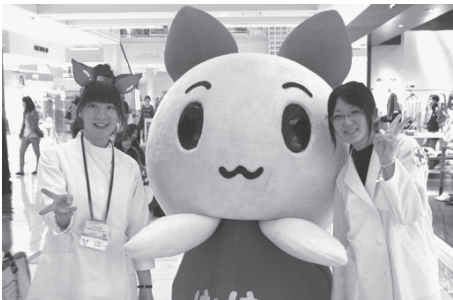
その他にも、けんけつちゃんとの写真撮影、献血啓発パネル、模擬血液の展示も行うこととした。また、キッズ献血カードの提示でイオンモール倉敷内のテナントからお菓子やドーナツなどが得られる特典をイオンモール倉敷に依頼し準備した。

表 1 事前広報活動

	1回目 H24.11.17～18	2回目 H25.3.9～10
センター HP	告知掲載	告知掲載
イオンHP	告知掲載	告知掲載
プレスリリース	報道機関21社	報道機関21社 地元民放ラジオ出演 地元テレビ局取材
チラシ配布	倉敷市内小学校17校	総社市内小学校15校



血圧計・聴診器・
けんけつちゃん耳ペーパークラフト



白衣・看護衣・けんけつちゃん



横断幕



ベッドカバー

図 1 事前準備

3. 学生連盟の活動

岡山県独自の学生連盟の新たな活動として、学生が医師・看護師役となり、子どもたちへの疑似体験の対応を行うこととした。円滑に対応を行うため、事前に事務職員、看護師からレクチャーを受け、受付から接遇までの練習を行った。当日は、血圧測定や模擬採血などを行い、その際に問診や検診が献血者と患者の健康を守る上で重要であることや献血の重要性を伝えることとした。最後の接遇ではキッズ献血カードを手渡し、感想の記入を依頼することとした。

4. 保護者に対する活動

子どもたちが疑似体験をしている間、保護者に対しても献血への誘導を併せて行った。

【結 果】

イベントは、1回目を平成24年11月17日(土)、18日(日)、2回目を平成25年3月9日(土)、10日(日)の計2回開催した。

キッズ献血の参加人数は予想をはるかに超え、1回目は延べ1,186名、2回目は866名で、会場は大盛況となった(表2)。けんけつちゃんの耳の

ペーパークラフトを付けた子どもたちは店内のあちこちで見られ、広報の役割も果たした。

疑似体験後の感想の多くは、「楽しかった!」、「16歳になったら献血をしたい!」という内容であった。

一方、学生連盟の新たな活動としては、学生が主体となり1回目は延べ33名、2回目は46名の学生ボランティアが参加し、「採血を伴わない新たな取り組みで、今後の推進活動への意欲が出た」との感想が得られた。

なお、同時に実施した献血については、1回目は178名、2回目は175名となり、過去6カ月の土日平均と比べ、両回とも約30%増加した(表2)。

【考 察】

2回の延べ参加人数が2,000名を超えたことやアンケートへの回答内容から、献血の啓発活動としては十分な効果があったと考えられる。

今回、多くの参加者が得られた理由として、岡

山県においてはこれまでにない献血のイベントであったことやイオンモール倉敷の全面的な協力と事前広報が効果的であったことが推察される。

このイベントを企画、準備から学生と共に考えたことで、これまで以上にイベントに対する思い入れが深まり、さらに、結果として多くの参加者を得られたことから、今回の学生の頑張りが今後の推進活動へ繋がると期待される。

今後は、キッズ献血に参加した子どもたちが献血可能年齢に達するまでのフォローや、その保護者に対する献血の啓発も強化する必要があるため、引き続き地域や学生連盟との連携を一層深め、献血の普及啓発活動を続けていく予定である。

【謝 辞】

第37回日本血液事業学会総会のブロック血液センター所長推薦優秀演題に推薦していただいた、中四国ブロック血液センター土肥博雄所長並びに関係者の皆さまに深謝いたします。

表2 キッズ献血参加者数および献血状況

キッズ献血	1～5歳	6～12歳	13歳～	合計
1回目	274名	908名	4名	1,186名
2回目	225名	638名	3名	866名
献血*	受付者数		実献血者数	
1回目	231名 (+41.7%)		178名 (+30.7%)	
2回目	217名 (+32.8%)		175名 (+30.6%)	

*対過去6カ月土日平均